

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
人間の尊厳と自立		介護福祉学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	坂井 利成
授 業 の 概 要				
「人間の尊厳と自立」では、介護福祉を実践するために必要な人間に対する基本的理解を身につける。福祉理念の歴史の移り変わりを学ぶことで、人間の尊厳・人権尊重・権利擁護の考え方を身につける。利用者主体の観点から自立の考え方と自立生活を理解して、その人らしい生活を支える必要性を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
人権思想・福祉理念の歴史の移り変わりを理解する。 人間の尊厳・人権尊重・権利擁護の考え方を身につける。 人間にとっての自立の意味と、利用者主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	介護老人保健施設等で9年の実務経験			
時間外に必要な学修				
テキストをよく読んでおくこと。 予習と復習を行うこと。				
回	テ ー マ	内 容		
1	オリエンテーション	自己紹介 「人間の尊厳と自立」の概要		
2	人間の尊厳と利用者主体	人間を理解するということ 尊厳の理念と利用者主体		
3	人権思想の潮流とその具体化	人権の明文化、人権のとらえ方 自由権、生存権、世界人権宣言		
4	人権や尊厳に関する日本の諸規定	日本国憲法（幸福追求権、生存権） 社会福祉法の理念、介護保険法の目的、障害者総合支援法の目的		
5	人権と福祉理念の移り変わり①	人は人をどう援助してきたか		
6	人権と福祉理念の移り変わり②	戦後の新たな福祉のあり方への模索		
7	人権と福祉理念の移り変わり③	ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン QOL, 生命倫理		
8	人権尊重と権利擁護①	利用者の人権と生活		
9	人権尊重と権利擁護②	権利侵害の背景 権利擁護の視点		
10	自立の概念の多様性	いろいろな視点から見た自立		
11	自立とは	自立と自律 精神的自立		
12	介護を必要とする人の自立と自立支援①	自立支援に必要な視点		
13	介護を必要とする人の自立と自立支援②	ICFの考え方 ICIDHからICFへ		
14	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援との関係性	尊厳を守る介護の中心にある自立支援		

回	テ ー マ	内 容		
15	まとめ 期末テスト	「人間の尊厳と自立」のまとめ 期末テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第2版」中央法規		期末試験 課題・レポート	80.0% 20.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
人間関係とコミュニケーションⅠ		介護福祉学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	阿部 善彦
授 業 の 概 要				
対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を学習する。人間関係とコミュニケーションの基礎では、自己理解、他者理解をもとに対人関係とコミュニケーションについて理解する。また、コミュニケーションの技法の基礎を学び、組織におけるコミュニケーションについて理解する。				
授業終了時の到達目標				
①利用者や家族や関係者との関係性を理解することができる。 ②人間関係を作るために必要なコミュニケーションの意義や機能を知識として習得することができる。 ③自己理解、他者理解を学び、コミュニケーションの技法の基礎を理解することができる。 ④組織におけるコミュニケーションについて特徴と情報の流れを理解することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		①特別養護老人ホームで介護職員経験あり。 ②訪問介護でサービス提供責任者、管理者経験あり。 ③デイサービスセンターで生活相談員、管理者経験あり。		
時間外に必要な学修				
テキストをよく読んでおくこと。 予習と復習を行うこと。				
回	テ ー マ	内 容		
1	オリエンテーション	自己紹介 「人間関係とコミュニケーションⅠ」の概要		
2	人間と人間関係	教科書p80～94 自分と他社の理解 自己覚知 自己開示 ラポールの形成（信頼関係）		
3	発達心理学からみた人間関係	教科書p95～101 エリクソンの発達段階説 社会性の発達 発達における個人差		
4	社会心理学からみた人間関係	教科書p102～112 対人認知と人間関係 私たちの生活と集団 集団生活の展開		
5	人間関係とストレス	教科書p113～120 日常生活のストレス ストレスの個人差 問題焦点型コーピング・情動焦点型コーピング		
6	対人関係におけるコミュニケーション	教科書p122～127 コミュニケーションの語源 メッセージ 送り手と受け手		
7	コミュニケーションの手段①	教科書p128～140 言語的コミュニケーション 非言語コ ミュニケーション 準言語		
8	コミュニケーションの手段②	教科書p128～140 言語的コミュニケーション 非言語コ ミュニケーション 対人距離 非言語の機能		
9	対人援助関係とコミュニケーション	教科書p142～149 人間関係の発展とコミュニケーション 人間関係の後退とコミュニケーション		
10	対人援助における基本的態度	教科書p150～152 受容 共感 傾聴		
11	援助関係の形成とバイステック7原則	教科書p153～161 バイステック7原則 基本的ニーズ		
12	組織におけるコミュニケーション	教科書p163～166 組織の4つの条件（目的、役割、地位、 関係）		
13	組織における情報の流れ	教科書p167～169 トップダウン・ボトムアップ・水平的な コミュニケーション		
14	組織の求められるコミュニケーション	教科書p170～175 報告・連絡・相談 ブレインストーミン グ ティーチング コーチング		

回	テ ー マ	内 容		
15	まとめ 期末テスト	「人間関係とコミュニケーションⅠ」のまとめ 期末テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「最新 介護福祉士養成講座Ⅰ 人間の理 解 第2版」中央法規 配布資料		課題・レポート 期末試験	20.0% 80.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会の理解Ⅰ		介護福祉学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	坂井 利成
授 業 の 概 要				
個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。 日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。				
授業終了時の到達目標				
個人・家族・地域・社会のしくみと、地域における生活の構造について学び、生活と社会のかかわりや自助・互助・共助・公助の展開について理解できるようにする。地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のため制度・施策を理解できるようにする。社会保障制度の基本的な考え方としくみ、社会保障の現状と課題を理解できるようにする。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	介護老人保健施設等で9年間の実務経験			
時間外に必要な学修				
テキストをよく読んでおくこと。 予習と復習を行うこと。				
回	テ ー マ	内 容		
1	オリエンテーション	「社会の理解Ⅰ」の概要		
2	生活の基本機能	生活の基本機能、社会生活のメカニズム 家庭生活の機能		
3	ライフサイクルの変化	生活と働き方の変化 少子高齢化と健康寿命		
4	家族の機能と役割	家族の概念とその変容、家族の構造・形態、機能 家族観の多様化		
5	社会・組織の機能と役割	社会・組織の概念や機能と役割 グループ支援、組織化		
6	地域、地域社会	社会・組織の概念や機能と役割 グループ支援、組織化		
7	地域社会における生活支援	生活支援と福祉 自助・互助・共助・公助		
8	地域福祉の発展	地域福祉の理念、地域福祉の歴史的展開 地域福祉の推進、災害と地域福祉		
9	地域共生社会	地域福祉の理念、地域福祉の歴史的展開 地域福祉の推進、災害と地域福祉		
10	地域包括ケア	地域包括ケアの概念 地域包括ケアシステム		
11	社会保障の基本的考え方	社会保障の意義と役割、目的と機能		
12	日本の社会保障制度の発展	日本の社会保障制度の歴史を学ぶ 社会保障基礎構造改革		
13	日本の社会保障制度の仕組み	社会保障制度の体系としくみ、年金保険、医療保険、介護保険 雇用保険、労働災害補償保険		
14	現代社会と社会保障制度	少子高齢化の進行、財政問題、給付と負担の関係 社会保障制度の持続可能な道、今後の課題		

回	テ ー マ	内 容		
15	まとめ 期末テスト	「社会の理解Ⅰ」のまとめ 期末テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解 第2版」中央法規		期末試験 課題・レポート	80.0% 20.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
介護過程Ⅰ		介護福祉学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	三木 春美
授 業 の 概 要				
他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開できる基本的な考え方や実践で展開することのできる能力を養う。				
授業終了時の到達目標				
介護過程の意義を理解し、利用者の課題を抽出し、個別介護計画書の作成を行うことができる。 介護計画書に沿って介護を行う根拠を説明することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護施設等で10年の実務経験、介護支援専門員6年の実務経験あり		
時間外に必要な学修				
事前にテキストを熟読しておくこと				
回	テ ー マ		内 容	
1	生活の過程		利用者の生活上の課題	
2	介護過程の意義と基礎的理解1		介護過程の意義・目的 プロセス	
3	介護過程の意義と基礎的理解2		生活支援における介護過程の必要性	
4	情報収集とアセスメント		情報を集める 情報の解釈・関連づけ・統合化	
5	アセスメントと介護計画の関連性		介護過程とICF	
6	直接的な情報収集		利用者の表情やしぐさなどから推察する	
7	間接的な情報収集		介護記録・その他の職種の記録からの情報収集	
8	生活歴の理解		その「ひと」の生活の歴史とは	
9	医学モデルの視点 ICIDHの理解		ICIDHの視点	
10	生活モデルの視点 環境因子、個人因子について		環境因子 個人因子の理解	
11	ICFの考え方にに基づく介護計画の立案①		介護過程の立案 その「ひと」をみる	
12	ICFの考え方にに基づく介護計画の立案②		介護過程の立案	
13	思考過程		様々な場面での支援内容の理解	
14	介護計画の作成		個別ケア提供における介護計画の意義 立案方法	
15	まとめ 試験		介護計画	
教科書・教材		評価基準		評価率
最新 介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規 出版 適宜資料 プリント		課題・レポート 期末試験		20.0% 80.0%
				【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて今回の学習内容の復習と予習を行う

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
介護過程Ⅱ		介護福祉学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	三木 春美
授 業 の 概 要				
他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開できる基本的な考え方や実践で展開することのできる能力を養う。				
授業終了時の到達目標				
介護過程の意義を理解し、利用者の課題を抽出し、個別介護計画書の作成を行うことができる。 介護計画書に沿って介護を行う根拠を説明することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	介護施設等で10年の実務経験、介護支援専門員6年の実務経験あり			
時間外に必要な学修				
教科書を読み、復習、予習				
回	テ ー マ		内 容	
1	生活の過程		利用者の生活上の課題	
2	介護過程の意義と基礎的理解1		介護過程の意義・目的 プロセス	
3	介護過程の意義と基礎的理解2		生活支援における介護過程の必要性	
4	情報収集とアセスメント		情報を集める 情報の解釈・関連づけ・統合化	
5	アセスメントと介護計画の関連性		介護過程とICF	
6	直接的な情報収集		利用者の表情やしぐさなどから推察する	
7	間接的な情報収集		介護記録・その他の職種の記録からの情報収集	
8	生活歴の理解		その「ひと」の生活の歴史とは	
9	医学モデルの視点 ICIDHの理解		ICIDHの視点	
10	生活モデルの視点 環境因子、個人因子について		環境因子 個人因子の理解	
11	ICFの考え方にに基づく介護計画の立案①		介護過程の立案 その「ひと」をみる	
12	ICFの考え方にに基づく介護計画の立案②		介護過程の立案	
13	思考過程		様々な場面での支援内容の理解	
14	介護計画の作成		個別ケア提供における介護計画の意義 立案方法	
15	まとめ 試験		介護計画	
教科書・教材			評価基準	評価率
最新 介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規 出版 適宜資料 プリント			課題・レポート 期末試験	20.0% 80.0%
				【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて今回の学習内容の復習と予習を行う

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
介護の基本 I		介護福祉学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	45回	6単位（90時間）	必須	坂井 利成
授 業 の 概 要				
介護福祉士の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う				
授業終了時の到達目標				
介護の基本的な知識・技術を学び、介護福祉士としての役割、倫理について理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護老人保健施設等で9年間の実務経験あり		
時間外に必要な学修				
教科書を熟読しておく				
回	テ ー マ		内 容	
1	介護福祉を取り巻く状況①		介護の成り立ちについて理解する	
2	介護福祉を取り巻く状況②		介護福祉士を取り巻く状況について理解する	
3	介護福祉を取り巻く状況③		介護ニーズの複雑化や多様化など介護福祉を取り巻く状況について理解する	
4	介護福祉の歴史①		老人福祉法が成立した社会的背景を理解する	
5	介護福祉の歴史②		介護保険法によって規定される介護の範囲を理解する	
6	介護福祉の歴史③		介護福祉士の定義規定の変遷について理解する	
7	介護福祉の基本理念①		介護福祉の基本となる理念を理解する	
8	介護福祉の基本理念②		尊厳を支える介護にかかわるノーマライゼーション、QOLなどの考え方を理解する	
9	介護福祉の基本理念③		自立を支える介護にかかわる自己決定や利用者主体について理解する	
10	介護福祉の基本理念④		自立を支える介護にかかわる自己決定や利用者主体について理解する	
11	社会福祉及び介護福祉士法①		社会福祉士及び介護福祉士法の概要を理解する	
12	社会福祉及び介護福祉士法②		介護福祉士が守るべき義務規定の意味を学ぶ	
13～14	介護福祉士の活動の場と役割①		地域包括ケアシステムについて理解する	
15	介護福祉士の活動の場と役割②		介護予防における介護福祉士の役割と機能を理解する	
16	介護福祉士の活動の場と役割③		医療的ケアなど新たな介護福祉士の役割と機能を理解する	

回	テ ー マ	内 容
17	介護福祉士の活動の場と役割④	看取りにおける介護福祉士の役割と機能を理解する
18	介護福祉士の活動の場と役割⑤	災害時における介護福祉士の役割と機能を理解する
19	介護福祉士に求められる役割とその養成①	介護ニーズの変化と、介護福祉士に求められる役割を理解する
20	介護福祉士に求められる役割とその養成②	求められる介護福祉士像を理解する
21	介護福祉士に求められる役割とその養成③	各領域での学びを構造的に理解する
22	介護福祉士に求められる役割とその養成④	チームリーダーとしての介護福祉士像を理解する
23	介護福祉士を支える団体①	介護福祉士を支える職能団体や養成施設協会の働きを理解する
24	介護福祉士を支える団体②	専門的な技術・知識を高める生涯研修や、各学会の活動について理解する
25	介護福祉士の倫理①	介護に携わる人が持つべき職業倫理を学ぶ
26	介護福祉士の倫理②	普遍的な倫理判断の視点を学び、それがさまざまな介護の場面でどう活かせるかを考える
27	日本介護福祉士会の倫理綱領①	介護福祉士に求められる職業倫理について理解する
28～ 29	日本介護福祉士会の倫理綱領②	日本介護福祉士会の倫理綱領と行動規範を例に、介護福祉の専門性と倫理を理解する
30	介護福祉における自立支援①	自立支援の具体的な考え方を理解する
31	介護福祉における自立支援②	利用者の意思決定を支える方法について理解する
32	介護福祉における自立支援③	自立を支援するための環境整備について理解する
33～ 34	ICFの考え方	ICFにおける生活機能と各因子との相互作用について理解する
35	自立支援とリハビリテーション①	自立支援とリハビリテーションの基本的な考え方について理解する
36	自立支援とリハビリテーション②	リハビリテーションを考えるうえでの障害の理解と評価について理解する
37	自立支援とリハビリテーション③	リハビリテーションのなかでの自立のとらえ方について理解する
38	自立支援とリハビリテーション④	リハビリテーションのなかでの介護福祉士の役割について理解する
39	自立支援と介護予防①	自立支援と介護予防の基本的な考え方を理解する
40	自立支援と介護予防②	介護予防の種類と展開について理解する
41	自立支援と介護予防③	高齢者の身体特性と介護予防について理解する
42	自立支援と介護予防④	介護予防の実際について理解する

回	テ ー マ	内 容		
43	自立支援と介護予防⑤	介護予防のなかで介護福祉士の役割について理解する		
44	介護の基本Ⅰまとめ	介護の基本について総まとめ		
45	まとめ テスト			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新 介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ 第2版 中央法規 出版 適宜資料 プリント		期末試験 課題・レポート	80.0% 20.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
介護の基本Ⅱ		介護福祉学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位（60時間）	必須	阿部 善彦
授 業 の 概 要				
介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解する。 介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。				
授業終了時の到達目標				
介護福祉士の倫理について理解を深める。 介護福祉を必要とする人を理解する。 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみを理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	①特別養護老人ホームで介護職員経験あり。 ②訪問介護でサービス提供責任者、管理者経験あり。 ③デイサービスセンターで生活相談員、管理者経験あり。			
時間外に必要な学修				
テキストの事例等をよく読んでおくこと。				
回	テ ー マ	内 容		
1	私たちの生活の理解①	1. 生活とは何か 1) 生活とは 2) 生活と時間 3) 生活と空間 4) 生活とリズム		
2～3	私たちの生活の理解②	2. 生活にとって大切な要素 1) 家庭 2) 地域 3) 社会 3. 生活の特性 1) いくつもの暮らし方がある 2) 生活者本人が選択するものではあるが、さまざまな要素の影響を受ける 3) 他者とのかかわりが不可欠である 4) 連続性のなかで変化する 5) 住んでいる地域によって暮らし方は変わる 6) 1人ひとりが人生という「歴史」をきざんでいる 7) 生活習慣の違い 4. 「生活のしづらさ」に対する支援 1) 「生活のしづらさ」への対応		
4～5	介護福祉士を必要とする人たちの暮らし	1. 介護福祉を必要とする人の「暮らし」を理解すること 1) 暮らし＝歴史と、その多様性を理解する 2) 介護福祉職の利用者理解の視点 2. 介護福祉士を必要とする高齢者の暮らし 3. 介護福祉士を必要とする障害者の暮らし 4. 個人の暮らしや歴史を聴く場合の注意点		
6	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解	1. 「その人らしさ」とは何か 2. 「その人らしさ」の背景 3. 「その人らしさ」の介護福祉における活用 4. 「生活ニーズ」の理解 5. 個々の生活ニーズにどこまでこたえるか		

回	テ ー マ	内 容
7	生活のしづらさの理解とその支援	1. 生活のしづらさについて考える 1) 生活のしづらさへの誤った支援を防ぐ 2. 家族介護者への支援 1) 介護福祉士の介護者に対する支援の根拠 2) 家族介護者に対する理解 3) 認知症の人の列車事故からみる家族介護への理解 4) 家族介護者に対する具体的な支援
8	利用者の生活を支えるしくみ	1. 地域共生社会 2. 地域包括ケアシステム
9～ 11	生活を支えるフォーマルサービス（社会的サービス）とは	1. 高齢者のためのフォーマルサービスの概要 1) 介護保険制度におけるサービスの種類 2) 介護福祉士に求められる支援の視点 2. 障害者のためのフォーマルサービスの概要 1) 障害者総合支援法によるサービス 2) 介護福祉士に求められる支援の視点
12	生活を支えるインフォーマルサービス（私的サービス）とは	1. 費用負担による区分 2. フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係 3. インフォーマルサービスの種類 4. インフォーマルサービスの提供者 5. 介護福祉士に求められる支援の視点
13～ 14	地域連携	1. 地域連携の意義と目的 1) 地域連携の意義と目的 2) 地域連携の形 3) 地域連携における介護施設の役割 2. 地域連携にかかわる機関の理解 1) 地域福祉にかかわる組織・団体 2) 地域福祉のにない手 3. 利用者を取り巻く地域連携の実際 1) 重度の障害のあるAさんの現状 2) Aさんへの支援 3) Aさんの現在 4) Aさんの事例からの学び
15～ 16	多職種連携・協働の必要性①	1. 多職種連携・協働とは 1) 連携・協働とは 2) 目的・目標の共有 2. 多職種連携・協働を要請する社会の動き 1) 少子高齢化の進行 2) QOLの向上をめざすための制度改革 3) 医療・介護サービスの一体的提供 4) 地域包括ケアシステムの構築 5) 「我が事・丸ごと」地域共生社会へ
17～ 18	多職種連携・協働の必要性②	3. なぜ、多職種連携・協働が必要なのか 1) 慢性疾患を有する高齢者の増加 2) 介護保険制度の創設 3) 介護保険制度の改正 4) 切れ目のないサービス提供 4. 多職種連携・協働を阻むもの 1) 専門職の自律性 2) 教育背景・教育内容の違い 3) 縦割りの養成教育 5. 多職種連携・協働の効果 1) 利用者のQOLの向上 2) 成長をうながす
19	中間まとめ	これまでの介護の基本Ⅱまとめ

回	テ ー マ	内 容
20	多職種連携・協働に求められる基本的な能力①	1. 介護実践の場で多職種連携・協働が必要とされる意味 2. 多職種連携・協働のためのチームづくり 1) チームづくりの意義 2) チーム構成メンバーとしての役割 3) 支援の目標・目的の一致をはかるためのチームづくり 4) チームに備わっているべき要素 5) まずは連絡 6) 連携・協働へ
21	多職種連携・協働に求められる基本的な能力②	3. 多様な視点と受容を必要とする協働 1) 多様な視点とは 2) コップのとらえ方が意味すること 4. 課題解決に対する多職種のかかわり 5. 多職種協働を成功させるための介護技術と知識
22	多職種連携・協働に求められる基本的な能力③	6. 多職種協働とホスピタリティ的視点 1) ホスピタリティの定義 2) 「信頼関係の構築」「相互利益」と多職種協働との関係 7. 多職種協働に求められるコミュニケーション能力 1) 安心感の土壌づくり 2) 聴くスキル 3) 伝えるスキル
23	保険・医療・福祉職の役割と機能①	1. 社会福祉士 1) 社会福祉士とは 2) 社会福祉士になるには 3) 社会福祉士の役割・機能 2. 精神保健福祉士 1) 精神保健福祉士とは 2) 精神保健福祉士になるには 3) 精神保健福祉士の役割・機能 3. 介護支援専門員（ケアマネジャー） 1) 介護支援専門員とは 2) 介護支援専門員になるには 3) 介護支援専門員の役割・機能
24	保険・医療・福祉職の役割と機能②	4. 医師 1) 医師とは 2) 医師になるには 5. 歯科医師 1) 歯科医師とは 2) 歯科医師になるには 6. 看護師 1) 看護師とは 2) 看護師になるには 3) 看護師の役割・機能 7. 保健師 1) 保健師とは 2) 保健師になるには 3) 保健師の役割・機能

回	テ ー マ	内 容		
25	保険・医療・福祉職の役割と機能③	8. 理学療法士 1) 理学療法士とは 2) 理学療法士になるには 3) 理学療法士の役割・機能 9. 作業療法士 1) 作業療法士とは 2) 作業療法士になるには 3) 作業療法士の役割・機能 10. 言語聴覚士 1) 言語聴覚士とは 2) 言語聴覚士になるには 3) 言語聴覚士の役割・機能 11. 管理栄養士 1) 管理栄養士とは 2) 管理栄養士になるには 3) 管理栄養士の役割・機能 12. 歯科衛生士 1) 歯科衛生士とは 2) 歯科衛生士になるには 3) 歯科衛生士の役割・機能		
26	保険・医療・福祉職の役割と機能④	13. 公認心理士 1) 公認心理士とは 2) 公認心理士になるには 3) 公認心理士の役割・機能 14. 薬剤師 1) 薬剤師とは 2) 薬剤師になるには 3) 薬剤師の役割・機能 15. サービス提供責任者 1) サービス提供責任者とは 2) サービス提供責任者になるには 16. まとめ		
27	多職種連携・協働の実践①	1. 専門職連携実践とは何か 2. 多職種における地域での連携・協働 3. 特別養護老人ホームの連携の実態調査から 1) 介護福祉職とほかの各専門職の知識の共有 2) 介護福祉職の観察情報の提供後の各専門職の診察・観察 3) おむつ交換について 4) おむつ外しについて 5) 食事の介助方法について 6) 口腔ケアについて 7) 多職種で協働をするために		
28	多職種連携・協働の実践②	4. 自立支援介護における多職種連携の実践 1) 有料老人ホーム：Aさんの歩行自立まで 2) 特別養護老人ホーム：Bさんの経管栄養から常食への移行の取り組み		
29	介護の基本Ⅱの総まとめ	まとめ		
30	まとめ テスト	後期のまとめ 試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新 介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 第2版		課題・レポート 期末試験	10.0% 90.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
コミュニケーション技術Ⅰ		介護福祉学科／1年	2025／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	阿部 善彦
授 業 の 概 要				
コミュニケーション技術では、「人間関係とコミュニケーション」で学ぶコミュニケーションの基礎的な知識を基盤に、本人及び家族とのよりよい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な知識・技術を習得する。				
授業終了時の到達目標				
①介護におけるコミュニケーションの意義や技法を説明することができる。 ②介護実践に必要な基本的コミュニケーション能力を習得することができる。 ③障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的知識と技術を習得することができる。 ④本人の置かれている状況を理解し、支援関係の構築や意思決定を支援するための コミュニケーションの基本的な技術を理解することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	①特別養護老人ホームで介護職員経験あり。 ②訪問介護でサービス提供責任者、管理者経験あり。 ③デイサービスセンターで生活相談員、管理者経験あり。			
時間外に必要な学修				
テキストをよく読んでおくこと。 予習と復習を行うこと。				
回	テ ー マ	内 容		
1	オリエンテーション	自己紹介 「コミュニケーション技術Ⅰ」の概要		
2	介護におけるコミュニケーション	教科書p2～9 介護におけるコミュニケーションの意義と目的 コミュニケーションの果たす役割		
3	援助関係とコミュニケーション	教科書p11～21 援助関係の特徴と援助関係の構築するための原則 援助関係を意識したコミュニケーション		
4	コミュニケーションの基本技術	教科書p22～33 傾聴、受容、共感、距離感などのコミュニケーションの基本技術		
5	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本	教科書p35～41 言語・非言語・準言語コミュニケーションの機能・役割		
6	目的別のコミュニケーション技術	教科書p43～57 動機づけ 意思決定を支援するためのコミュニケーション		
7	集団におけるコミュニケーション技術	教科書p59～70 集団でのコミュニケーションの特徴、意義、留意点		
8	障害の特性に応じたコミュニケーション①	教科書p74～82 コミュニケーション障害への対応の基本		
9	障害の特性に応じたコミュニケーション②	教科書p84～98 視覚障害、聴覚障害のある人への支援		
10	障害の特性に応じたコミュニケーション③	教科書p99～112 構音障害、失語症のある人への支援		
11	障害の特性に応じたコミュニケーション④	教科書p113～127 認知症、うつ病・抑うつ状態のある人への支援		
12	障害の特性に応じたコミュニケーション⑤	教科書p128～140 統合失調症、知的障害のある人への支援		
13	障害の特性に応じたコミュニケーション⑥	教科書p141～155 発達障害、高次脳機能障害のある人への支援		
14	障害の特性に応じたコミュニケーション⑦	教科書p156～164 重症心身障害のある人への支援		

回	テ ー マ	内 容		
15	まとめ 期末テスト	「コミュニケーション技術Ⅰ」のまとめ 期末テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「最新 介護福祉士養成講座1 コミュニケーション技術 第2版」中央法規 適宜資料		課題・レポート 期末試験	20.0% 80.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて今回の学習内容の復習と予習を行う

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
コミュニケーション技術Ⅱ		介護福祉学科／1年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	佐々木 望
授 業 の 概 要				
コミュニケーション技術Ⅱでは、本人及び家族とのよりよい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な知識・技術を習得する。そして、介護におけるチームのコミュニケーションについて、情報共有の意義、活用、管理などに関する基本知識・技術を習得する。				
授業終了時の到達目標				
①介護の実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的なコミュニケーションの知識・技術を習得できる。 ②家族の状況・場面を理解し、家族への支援や信頼関係を構築するためのコミュニケーションの基本的な技術を習得できる。 ③情報を適切にまとめ、発信するために、介護実践における情報の共有化の意義を理解し、チームケアの実践の方法や情報の管理について理解することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		①特別養護老人ホームで介護職員経験あり。 ②訪問介護でサービス提供責任者、管理者経験あり。 ③デイサービスセンターで生活相談員、管理者経験あり。		
時間外に必要な学修				
テキストをよく読んでおくこと。 予習と復習を行うこと。				
回	テ ー マ	内 容		
1	オリエンテーション	「コミュニケーション技術Ⅰ」の振り返り 「コミュニケーション技術Ⅱ」の概要		
2	家族とのコミュニケーション① 家族との関係づくり	教科書p168～173 家族との関係づくり 家族と協働関係の構築		
3	家族とのコミュニケーション② 家族への助言・指導・調整	教科書p174～181 家族を支援する視点 利用者と家族の意向の調整		
4	家族とのコミュニケーション③ 介護ストレスへの対応	教科書p183～197 家族の介護ストレスへの対応		
5	介護におけるチームコミュニケーション①	教科書p192～197 チームコミュニケーションの意義・目的 介護実践でのチームコミュニケーション技術		
6	介護におけるチームコミュニケーション②	教科書p198～206 報告・連絡・相談の技術①意義と目的		
7	介護におけるチームコミュニケーション③	教科書p207～226 記録の技術②種類と書き方		
8	介護におけるチームコミュニケーション④	教科書p207～226 記録の技術①意義と目的		
9	介護におけるチームコミュニケーション⑤	教科書p207～226 記録の技術②種類と書き方		
10	会議・議事進行・説明の技術①	教科書p228～240 会議進行の技術 会議・チームにおける説明の技術		
11	会議・議事進行・説明の技術②	教科書p228～240 会議進行の技術 会議・チームにおける説明の技術		
12	事例検討会に関する技術①	教科書p242～249 事例検討を行う意義と目的 事例検討会の実践的展開と注意点		
13	事例検討会に関する技術②	教科書p242～249 事例検討を行う意義と目的 事例検討会の実践的展開と注意点		

回	テ ー マ	内 容		
14	情報の活用と管理	教科書p251～256 情報の活用と管理をする技術 個人情報の保護と活用		
15	まとめ 期末テスト	「コミュニケーション技術Ⅱ」のまとめ 期末テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「最新 介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術 第2版」中央法規 配布資料		課題・レポート 期末試験	20.0% 80.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生活支援技術Ⅰ		介護福祉学科／1年	2025／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	45回	6単位（90時間）	必須	三木 春美
授 業 の 概 要				
生活支援における具体的な介護技術を学ぶ。 利用者の生活を多角的に支えるためのチームアプローチのあり方などを学ぶ。 介護福祉士が行う生活支援の意義と目的を理解する。 1）自立に向けた身じたくの介護 2）自立に向けた移動の介護 3）自立に向けた入浴の介護 4）自立に向けた排せつの介護 5）自立に向けた食事の介護				
授業終了時の到達目標				
利用者の尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から本人主体の生活の継続ができるよう、根拠に基づいた介護実践を行うことができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護施設等で10年の実務経験、介護支援専門員6年の実務経験あり。		
時間外に必要な学修				
事前にテキストを熟読しておくこと。				
回	テ ー マ		内 容	
1	【自立に向けた身じたくの介護】 生活とは		介護福祉職として、「ひとの生活」の基礎的理解	
2	【自立に向けた身じたくの介護】 自立した身じたくとは		疾病や障害があり介護を必要な人の「自立」した身じたくについて学習します。	
3	【自立に向けた身じたくの介護】 アセスメント		対象者のアセスメント＝情報を集めるグループワークを行ってみましょう。	
4	【自立に向けた身じたくの介護】 整容、衣生活の調整		生活のリズムをと整える 健康維持 自分らしさの表現、生活の中の楽しみ	
5	【自立に向けた身じたくの介護】 身じたくの介助		利用者の現状を情報として捉える 介護を行う際の確認ポイント	
6	【自立に向けた身じたくの介護】 利用者の状態に合わせた介護の留意点		洗顔 整髪 ひげそり	
7	【自立に向けた身じたくの介護】 多職種の役割と協働		他職種の役割と介護福祉職との連携 医療 美容・理容師 福祉環境コーディネーター ケアマネージャー	
8	【自立に向けた身じたくの介護】 実技テスト		ベッドメイキング 身じたくに関する介護技術	
9	【自立に向けた移動の介護】 移動の意義と目的		移動のあり方 介護福祉職のすべきこと 全介助 一部介助	
10	【自立に向けた移動の介護】 アセスメント		心身の状況に合わせた介護を行うために 情報収集 利用者を理解する	

回	テ ー マ	内 容
11	【自立に向けた移動の介護】 安全な移動の介護	歩行のあり方 介護福祉職のすべきこと 全介助 一部介助
12	【自立に向けた移動の介護】 歩行介助の留意点	視覚障がい者への支援方法 ・施設内、施設外
13	【自立に向けた移動の介護】 安全な移動・移乗の介護	車いす操作方法 移乗 移動
14	【自立に向けた移動の介護】 移乗時の留意点	全介助・一部介助時の留意点
15	【自立に向けた移動の介護】 福祉用具の意義	公的制度における福祉用具サービス 障害者総合支援法における福祉用具サービス
16	【自立に向けた移動の介護】 多職種連携	移動に関する職種の役割 介護福祉職との連携のあり方
17	【自立に向けた移動の介護】 実技テスト	起居介助 車いす介助 全介助・一部介助
18	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 清潔保持の観点	清潔・入浴の目的 一連の流れ
19	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 多職種連携と介護福祉士としての役割	清潔保持に関する職種の役割 介護福祉職との連携のあり方
20	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 アセスメント	入浴時のアセスメント項目 利用者の状態への理解と関わり方
21	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 状態に合わせた入浴方法	個浴 特浴 (一部・全介助)
22	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 状態に合わせた入浴方法	シャワー浴 清拭・陰部洗浄 (一部・全介助)
23	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 状態に合わせた入浴方法	シャワー浴 清拭・陰部洗浄 (一部・全介助)
24	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 状態に合わせた入浴方法	臥位での足浴
25	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 入浴後の観察	バイタル 水分補給
26	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 ふりかえり	自立に向けた清潔・入浴の介護 ふりかえり
27	【自立に向けた排せつの介護】 排せつの意義と目的	自立した排せつとは 自立した排せつの一連の流れ
28	【自立に向けた排せつの介護】 アセスメント	排せつの介護 心身の状況に応じた介護
29	【自立に向けた排せつの介護】 環境整備	介護職としての環境整備
30	【自立に向けた排せつの介護】 尊厳を考えた排せつ介助1	排せつの一連の流れ

回	テ ー マ	内 容		
31	【自立に向けた排せつの介護】 尊厳を考えた排せつ介助2	ベッド上 おむつ交換 尿器 便器 一連の流れ		
32	【自立に向けた排せつの介護】 尊厳を考えた排せつ介助3	トイレ介助① トイレ・ポータブル誘導		
33	【自立に向けた排せつの介護】 尊厳を考えた排せつ介助4	トイレ介助② おむつ リハビリパンツ		
34	【自立に向けた排せつの介護】 尊厳を考えた排せつの介助5	歩行可能な利用者の介助 一部介助 半介助 全介助		
35	【自立に向けた排せつの介護】 多職種の役割と協働	関連した多職種の役割 介護職としての排せつの役割		
36	【自立に向けた排せつの介護】 実技テスト	おむつ交換・トイレ介助		
37	【自立に向けた食事の介護】 食事の意義と目的	食事をとるとは 高齢者にとっての食事の意義		
38	【自立に向けた食事の介護】 アセスメント	利用者の状態を把握する上で必要な視点 情報収集		
39	【自立に向けた食事の介護】 食事介助1	自立に向けた食事介助方法		
40	【自立に向けた食事の介護】 食事介助2	全介助の一連の流れ		
41	【自立に向けた食事の介護】 多職種連携の役割と協働	自立した食事につなげるための多職種連携とは		
42	【自立に向けた食事の介護】 実技テスト	ベッド上での食事介助		
43	事例検討1	グループワーク ・食事介助が必要な利用者への支援方法 ・水分不足の利用者への支援方法		
44	事例発表	発表		
45	まとめ	自立に向けた生活支援技術の展開とは		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新 介護福祉士養成講座 生活支援技術 Ⅰ6・Ⅱ7・Ⅲ8 中央法規 出版 適宜資料 プリント		実習・実技評価 期末試験 課題・レポート	40.0% 50.0% 10.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて今回の学習内容の復習と予習を行う

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生活支援技術Ⅱ		介護福祉学科／1年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	45回	6単位（90時間）	必須	三木 春美
授 業 の 概 要				
在宅のあり方を理解し、利用者・家族に対して生活の支援を行うための技術を身につける。 災害や緊急時など、介護福祉士としての役割を理解することができ多職種協働を行うことできる。				
1) 生活支援 2) 自立に向けた家事の介護 3) 応急手当の知識と技術				
授業終了時の到達目標				
生活支援とは何かを理解し、適切な家事支援を行うことができる。 他職種と連携し緊急時の対応を適切に行うことができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護施設 10 年の実務経験、介護支援専門員 6 年の実務経験あり。		
時間外に必要な学修				
実技練習				
回	テ ー マ		内 容	
1	【生活支援の理解】 生活支援とは		科目説明 生活支援とは	
2	【生活支援の理解】 生活支援の基本的な考え方		ライフサイクルと生活の豊かさ 生活支援のポイント	
3	【生活支援の理解】 生活支援と介護過程		介護福祉士が行う生活支援とICFの意義	
4	【生活支援の理解】 生活支援と介護過程2		根拠ある生活支援技術 p. 19	
5	【生活支援の理解】 生活支援とチームアプローチ①		チームアプローチの重要性 生活場面により関わる主な職種	
6	【生活支援の理解】 生活支援とチームアプローチ②		ライフステージとチームアプローチのあり方	
7	【自立に向けた家事の介護】 自立した家事とは		自立生活を支える家事 一連の流れ	
8	【自立に向けた家事の介護】 自立に向けた家事の介護①		洗濯	
9	【自立に向けた家事の介護】 自立に向けた家事の介護②		部屋の掃除 風呂掃除 トイレ掃除 ゴミ捨て	
10	【自立に向けた家事の介護】 自立に向けた家事の介護③		裁縫 衣類・寝具の衛生管理	
11	【自立に向けた家事の介護】 自立に向けた家事の介護④		買い物	
12	【自立に向けた家事の介護】 他職種との連携		家事の介護における多職種との連携	
13	【応急手当の知識と技術】 応急手当について		高齢者に起こりやすい主な事故 その予防の視点	
14	【災害時における生活支援】 被災地での活動と生活支援		被災地で活躍する際に知っておくべきこと あるべき支援者の姿	

回	テ ー マ	内 容
15	【災害時における生活支援】 ハザードマップ作成1	ハザードマップの作成1
16	【災害時における生活支援】 ハザードマップ作成2	ハザードマップの作成2
17	【災害時における生活支援】 まとめ	支援者としてのありかた
18	【休息・睡眠の介護】 睡眠とは	ひとにとって休息・睡眠の意味 日常生活における休息・睡眠の必要性
19	【休息・睡眠の介護】 状態に応じた睡眠の介護	休息・就寝時の介護職としての対応
20	【休息・睡眠の介護】 アセスメント	利用者の心身の状態
21	【休息・睡眠の介護】 環境整備	入眠の準備
22	【休息・睡眠の介護】 多職種連携による支援	不眠時の対応 多職種との連携
23	【休息・睡眠の介護】 まとめ	対応 介助方法
24	【人生の最終段階における介護】	人生の最終段階について
25	【人生の最終段階における介護】	終末期の定義
26	【人生の最終段階における介護】	死を迎えた人の介護 なくなった後の介護・グリーフケア
27	【人生の最終段階における介護】	終末期における本人と家族の意思
28	【人生の最終段階における介護】	痛みの理解
29	まとめ	
30	【レクリエーション】 レクリエーションの意義と目的	レクリエーションとは
31	【レクリエーション】 行事とは	行事 行事を行う意義
32	【レクリエーション】 福祉レクリエーション	福祉レクリエーション
33	【レクリエーション】 個別レクと集団レク	個別レク 集団レク
34	【レクリエーション】 個別レクリエーションプログラム	プログラム内容
35	【レクリエーション】 集団レクリエーションプログラム	プログラム内容
36	【レクリエーション】 多職種連携	多職種での参加 レクリエーションを行う際の環境面
37	【レクリエーション】 レクリエーション企画	福祉レクリエーション
38	【レクリエーション】 レクリエーション企画	福祉レクリエーション

回	テ ー マ	内 容		
39	【レクリエーション】 プログラム作成	コミュニケーションワーク		
40	【レクリエーション】 プログラム作成	コミュニケーションワーク		
41	【レクリエーション】 アイスブレーキング	アイスブレーキング		
42	【レクリエーション】 実践	実践		
43	【レクリエーション】 実践	実践		
44	【レクリエーション】 実践	実践		
45	【レクリエーション】 まとめ・評価	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新 介護福祉士養成講座 生活支援技術 中央法規 出版		実習・実技評価 期末試験 課題・レポート	40.0% 50.0% 10.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて今回の学習内容の復習と予習を行う

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生活支援技術（レクリエーション）		介護福祉学科／1年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	坂井 利成
授 業 の 概 要				
介護現場で実施されるレクリエーションについて、実際にやってみることで、利用者に合わせたレクリエーションについて学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・レクリエーションについて、工夫してルールを設定することができる。 ・利用者に合わせたレクリエーションを設定できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護老人保健施設等で9年間の実務経験		
時間外に必要な学修				
レクリエーションに必要な準備を行う。				
回	テ ー マ		内 容	
1～3	レクリエーション演習		レクリエーションを実際に行い、留意点について学ぶ。	
4～5	レクリエーション案作成		設定した利用者をもとに、レクリエーション案を立てる。	
6～9	模擬レクリエーションの実施		実際にレクリエーションを支援者として実施する。 模擬レクリエーションの振り返り	
10～14	レクリエーション演習		レクリエーションを実際に行い、留意点について学ぶ。	
15	まとめ		まとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
授業レジュメ		実習・実技評価 課題・レポート	70.0% 30.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
介護総合演習Ⅰ		介護福祉学科／1年	2025／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	三木 春美
授 業 の 概 要				
基本的な知識・技術を実習を通じ実践するための具体的方法を学ぶ。 学生自身の実践内容の分析、考察をし自己覚知へとつなげ、高い専門性と倫理観を養い、多様なニーズに対応できる能力を養う。				
授業終了時の到達目標				
介護施設等の概要と利用者の生活像を実習を通して理解し、介護福祉士としての役割を明確にできる。 他者理解に必要な基本的コミュニケーション方法、マナーを習得する。 自身の実習目標、学習課題について前向きに言語化できる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	介護施設等で10年の実務経験、介護支援専門員6年の実務経験あり			
時間外に必要な学修				
介護実習				
回	テ ー マ	内 容		
1	実習の意義と目的	介護福祉士養成教育のなかで、「介護総合演習」がどのような位置づけになっているかを学習する。		
2	介護実習の種類	介護福祉士養成カリキュラムと介護実習を学び実習Ⅰと実習Ⅱの目的、主な実習内容を学ぶ。		
3	実習準備	介護実習と関連する他科目の学習内容の確認、介護計画書の立案、実習に行く心得を学ぶ。		
4	実習先の特徴と学び 施設理解1	訪問介護、通所介護、通所リハビリテーションのサービス内容、利用者像などを学ぶ。		
5	実習先の特徴と学び 施設理解2	特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、養護老人ホームのサービス内容、利用者像などを学ぶ。		
6	実習先の特徴と学び 施設理解3	グループホーム、小規模多機能居宅介護、軽費老人ホーム、障害者支援施設、医療院のサービス内容、利用者像を学ぶ。		
7	実習Ⅰの意義、概要	実習Ⅰの枠組み、理解しておく視点について学習する。		
8	マナー	実習前、中、後での態度や姿勢を学習する。 実習での学習内容をふりかえる。		
9	観察の意義・方法	「観察」の重要性、見るべきポイントを学習する。		
10	情報収集	ケアを行う際に必須な情報収集とは何か？どのように情報を集めるのかを学ぶ。		
11	情報分析シートの書きかた	情報分析シート、プロセスシートの記入方法		
12	記録の重要性	チームケアにおいて記録の重要性を学ぶ。		
13	記録の書き方	5W1Hについて学び、記録の記入方法を学習する。		
14	介護モデル	利用者の暮らしの場やコミュニケーションの必要性を学ぶ。		
15	介護モデル	利用者の状態や生活の課題を理解するために必要な観察眼を学ぶ。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 中央法規 適宜資料 プリント配布		確認テスト 課題・レポート 実習・実技評価	10.0% 60.0% 30.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
介護総合演習Ⅱ		介護福祉学科／1年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	三木 春美
授 業 の 概 要				
基本的な知識・技術を実習を通じ実践するための具体的方法を学ぶ。 学生自身の実践内容の分析、考察をし自己覚知へとつなげ、高い専門性と倫理観を養い、多様なニーズに対応できる能力を養う。				
授業終了時の到達目標				
介護施設等の概要と利用者の生活像を実習を通して理解し、介護福祉士としての役割を明確にできる。 他者理解に必要な基本的コミュニケーション方法、マナーを習得する。 自身の実習目標、学習課題について前向きに言語化できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	介護施設等で10年の実務経験、介護支援専門員6年の実務経験あり			
時間外に必要な学修				
介護実習				
回	テ ー マ	内 容		
1	実習の意義と目的	介護福祉士養成教育のなかで、「介護総合演習」がどのような位置づけになっているかを学習する。		
2	介護実習の種類	介護福祉士養成カリキュラムと介護実習を学び実習Ⅰと実習Ⅱの目的、主な実習内容を学ぶ。		
3	実習準備	介護実習と関連する他科目の学習内容の確認、介護計画書の立案、実習に行く心得を学ぶ。		
4	実習先の特徴と学び施設理解1	訪問介護、通所介護、通所リハビリテーションのサービス内容、利用者像などを学ぶ。		
5	実習先の特徴と学び施設理解2	特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、養護老人ホームのサービス内容、利用者像などを学ぶ。		
6	実習先の特徴と学び施設理解3	グループホーム、小規模多機能居宅介護、軽費老人ホーム、障害者支援施設、医療院のサービス内容、利用者像を学ぶ。		
7	実習Ⅱの意義、概要	実習Ⅱの枠組み、理解しておく視点について学習する。		
8	マナー	実習前、中、後での態度や姿勢を学習する。 実習での学習内容をふりかえる。		
9	観察の意義・方法	「観察」の重要性、見るべきポイントを学習する。		
10	情報収集	ケアを行う際に必須な情報収集とは何か？どのように情報を集めるのかを学ぶ。		
11	情報分析シートの書きかた	情報分析シート、プロセスシートの記入方法		
12	記録の重要性	チームケアにおいて記録の重要性を学ぶ。		
13	記録の書き方	5W1Hについて学び、記録の記入方法を学習する。		
14	実習のふりかえり	利用者の安全、快適、自立に配慮できる介護について学習のふりかえりをする。		
15	実習報告	視閲の概要、介護業務等 介護技術 感想・反省点		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 中央法規 適宜資料 プリント配布		課題・レポート 確認テスト 実習・実技評価	60.0% 10.0% 30.0%	

作成者:三木 春美

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
介護実習Ⅰ－①		介護福祉学科／1年	2025／前期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	12回	3単位（24時間）	必須	三木 春美
授 業 の 概 要				
利用者の人物像の把握及び、日常生活や生活環境、疾病、障害等を理解するために、基本的なコミュニケーション技術を習得し、介護職としての基本的態度、				
授業終了時の到達目標				
施設で生活される利用者の人物像、疾病、障害を理解でき、積極的にコミュニケーションを図ることができる。 基本的な記録物を作成できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護施設等で10年の実務経験、介護支援専門員6年の実務経験あり		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～ 12	【見学実習】		施設概要 利用者の基本情報	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
事前に配布するマニュアル、プリント		実習・実技評価 課題・レポート	50.0% 50.0%	

作成者:

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
介護実習Ⅱ－①		介護福祉学科／1年	2025／後期	外部実習	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	48回	3単位（96時間）	必須	三木 春美	
授 業 の 概 要					
施設の役割を理解するとともに、様々な生活像及び生活歴を把握し、介護過程の展開を図るための情報を収集し、ニーズを抽出、アセスメント、計画、実施、評価が一連の介護過程の中で実施できるための基本的な能力を養う。 利用者の生活のあり方について、個別に考察し、自立支援に基づいて個別ケアを提出することができる技術を身につける。					
授業終了時の到達目標					
施設の役割を理解できる。 利用者の生活像、ニーズを把握するための情報収集ができる。 自立支援を考えた介護実践ができる。 レクリエーションの実施ができる。					
実務経験有無		実務経験内容			
有		介護施設等で10年の実務経験、介護支援専門員6年の実務経験あり			
時間外に必要な学修					
回	テ ー マ		内 容		
1～48	介護実習Ⅱ		見学を通じて介護施設などの概要を理解する。 介護職者としての心得を理解する。 地域における生活支援の実践について学ぶ。		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
事前に配布するマニュアル、プリント			実習・実技評価 課題・レポート	50.0% 50.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
こころとからだのしくみⅠ		介護福祉学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位（60時間）	必須	福原 里奈
授 業 の 概 要				
・介護サービスを実際に提供する際に必要な観察力、判断力の根拠となる人間の心のしくみとからだのしくみの基礎を学ぶ ・介護技術の根拠となる人体の構造・機能を介護実践との関連の中で理解する。 ・薬の知識について、介護実践との関連の中で理解する。				
授業終了時の到達目標				
・人間の基本的欲求を理解したうえで、自己実現に向けた介護について考えることができる ・学習や動機づけの理論を踏まえて適応の仕組みが理解できる。 ・介護実践に必要な、人体の構造やボディメカニクスについて理解している。 ・介護実践に必要な薬の知識について理解している。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		看護師として8年の実務経験あり		
時間外に必要な学修				
復習として、ワークシートの整理を毎回行う（テキストのポイントの確認）、提出物準備行動				
回	テ ー マ		内 容	
1	健康とは何か		・WHOの健康の定義 ・健康づくりの概要	
2	人はなぜ病気になるのか		・健康の判断と健康寿命について ・健康を阻害する要因について	
3	こころのしくみの理解 基本的欲求		介護を必要とする人の基本的欲求を支援する 生理的欲求、安全欲求	
4	こころのしくみの理解 社会的欲求		社会的欲求について 所属・愛情欲求、承認欲求、自己実現欲求	
5	こころのしくみの理解 自己概念		自己概念とは 自己概念に影響する要因、自己実現と尊厳	
6	こころのしくみの理解 国際的取り組み		高齢者のための国連原則について	
7	こころのしくみの理解 「こころ」とは何か		人間のこころの基本的理解 現代心理学の観点から	
8	こころのしくみの理解 脳の仕組み		脳をつくる細胞 細胞の集団がつくる機能	
9	こころのしくみの理解 認知のしくみ・学習		認知とは 学習とは	
10	こころのしくみの理解 記憶・思考のしくみ		記憶とは 短期記憶・長期記憶 思考過程の異常とは 妄想について	
11	こころのしくみの理解 感情・情動のしくみ		感情のしくみ、気分と情動との違いについて 感情の異常の種類	
12	こころのしくみの理解 意欲・動機づけのしくみ		人が行動を起こすときの動機づけとは何か 意欲はどのようにして湧くのか	
13	こころのしくみの理解 適応のしくみ①		欲求不満と適応のしくみ ストレス反応	
14	こころのしくみの理解 適応のしくみ②		高齢者の人格とは 適応規制／防衛機制の種類と理解	
15	からだのしくみの理解①		身体の部位の役割① 1. 細胞・遺伝 2. 脳神経（中枢神経）	

回	テ　　マ	内　　　容		
16	からだのしくみの理解②	身体の部位の役割②　末梢神経、脳神経、脊髄神経		
17	からだのしくみの理解③	身体の部位の役割③　感覚器		
18	からだのしくみの理解④	身体の部位の役割④　呼吸器		
19	からだのしくみの理解⑤	身体の部位の役割⑤　循環器		
20	からだのしくみの理解⑥	身体の部位の役割⑥　消化器		
21	からだのしくみの理解⑦	身体の部位の役割⑦　泌尿器		
22	からだのしくみの理解⑧	身体の部位の役割⑧　骨・筋肉　１)		
23	からだのしくみの理解⑨	身体の部位の役割⑨　骨・筋肉　２)		
24	からだのしくみの理解⑩	身体の部位の役割⑩　骨・筋肉　３)		
25	からだのしくみの理解⑪	身体の部位の役割⑪　生殖器・内分泌のはたらき		
26	からだのしくみの理解⑫	身体の部位の役割⑫　血液・体液・リンパ		
27	関連する役割、および薬の知識①	１心身の調和　２生命の維持と恒常性のしくみ		
28	関連する役割、および薬の知識②	３介護福祉職に必要な薬の知識		
29	まとめ・復習	１から30回までのまとめ・復習		
30	期末試験	期末試験とまとめ、解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新　介護福祉士養成講座　１　こころとからだのしくみ　中央法規		期末試験 課題・レポート	90.0% 10.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
こころとからだのしくみⅡ		介護福祉学科／1年	2025／後期	講義	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	15回	2単位（30時間）	必須	福原 里奈	
授 業 の 概 要					
基礎知識をもとに利用者の身じたくや移動、食事等の生活を支える介護実践を学ぶ					
授業終了時の到達目標					
移動、身じたく、食事の生理的・心理的意味を理解し、介護実践に結びつけた援助の方法を考えることができる。					
実務経験有無		実務経験内容			
有		看護師として8年の実務経験			
時間外に必要な学修					
・課題レポートの作成 ・単元ごとの復習 ・国家試験問題の解答					
回	テ ー マ		内 容		
1	3章 移動に関連したこころとからだのしくみ①		移動のしくみについて		
2	3章 移動に関連したこころとからだのしくみ②		移動に関連したこころとからだのしくみ		
3	3章 移動に関連したこころとからだのしくみ③		心身の機能低下が移動に及ぼす影響		
4	3章 移動に関連したこころとからだのしくみ④		変化の気づきと対応		
5	4章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ①		身じたくのしくみ		
6	4章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ②		身じたくに関連したこころとからだのしくみ		
7	4章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ③		口腔衛生		
8	4章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ④		心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響		
9	4章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ⑤		変化の気づきと対応		
10	5章 食事に関連したこころとからだのしくみ①		食事のしくみ		
11	5章 食事に関連したこころとからだのしくみ②		食事に関連したこころとからだのしくみ		
12	5章 食事に関連したこころとからだのしくみ①		摂食嚥下の5分類と内容		
13	5章 食事に関連したこころとからだのしくみ①		心身の機能低下が食事に及ぼす影響		
14	5章 食事に関連したこころとからだのしくみ①		変化の気づきと対応		
15	まとめ 前期末試験		1から15までのまとめ・復習 前期末試験		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
最新 介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ 中央法規 介護福祉士国家試験合格度ドリル 中央法規			期末試験 課題・レポート	90.0% 10.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
発達と老化の理解 I		介護福祉学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	阿部 悠香
授 業 の 概 要				
1. 人間の成長と発達・発達課題 2. 老年期の特徴と発達課題				
授業終了時の到達目標				
1. 人間の成長と発達・老年期について理解できる 2. 発達段階に応じた発達課題が理解できる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		看護師として16年の実務経験		
時間外に必要な学修				
実習やアルバイトを通して高齢者の身体的特徴やかかわり方を理解してほしい。				
回	テ ー マ		内 容	
1	人間の成長と発達の基礎的知識		成長・発達の考え方	
2	人間の成長と発達の基礎的知識		成長・発達の原則・法則	
3	人間の成長と発達の基礎的知識		成長・発達に影響する要因	
4	人間の発達段階と発達課題		発達理論	
5	人間の発達段階と発達課題		発達段階と発達課題①	
6	人間の発達段階と発達課題		発達段階と発達課題②	
7	人間の発達段階と発達課題		身体的機能の成長と発達	
8	人間の発達段階と発達課題		心理的機能の発達	
9	人間の発達段階と発達課題		社会的機能の発達	
10	老年期の特徴と発達課題		老年期の定義	
11	老年期の特徴と発達課題		老化とは	
12	老年期の特徴と発達課題		老年期の発達課題	
13	老年期の特徴と発達課題		喪失体験	
14	老年期の特徴と発達課題		老年期をめぐる今日的課題	
15	まとめ		まとめ、期末試験	
教科書・教材		評価基準		評価率
最新 介護福祉士養成講座 1 2 発達と老化の理解 第2版 中央法規 配布資料		期末試験 課題・レポート		90.0% 10.0%
				その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
発達と老化の理解Ⅱ		介護福祉学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	阿部 悠香
授 業 の 概 要				
1. 老化にともなうところとからだの変化と生活 2. 高齢者と健康				
授業終了時の到達目標				
1. 老化に伴う変化と課題が理解できる 2. 高齢者の疾患について知識をもち、身体的・心理的側面にどのようにアプローチすればよいか判断できるようになる 3. 保健・医療・福祉の専門職の一員として連携と協力ができるようになる				
実務経験有無	実務経験内容			
有	看護師として16年の実務経験			
時間外に必要な学修				
テキストの予習・復習				
回	テ ー マ	内 容		
1	老化にともなうところとからだの変化と生活	老化にともなう身体的な変化と生活への影響(感覚器系の機能の変化と生活への影響まで)		
2		老化にともなう身体的な変化と生活への影響(血液・循環器系の機能の変化と生活への影響～)		
3		老化にともなう心理的な変化と生活への影響(認知機能の変化)		
4		老化にともなう心理的な変化と生活への影響(知的機能の変化～)		
5		老化にともなう社会的な変化と生活への影響(社会の中での生活上の課題)		
6	高齢者と健康	健康長寿に向けての健康		
7		高齢者の症状・疾患の特徴		
8		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(骨格系・筋系)		
9		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(脳神経系～循環器系)		
10		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(呼吸器系～腎・泌尿器系)		
11		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(内分泌・代謝系、歯・口腔疾患)		
12		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(悪性新生物、感染症)		
13		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(精神疾患、その他)		
14		保健医療職との連携		
15	まとめ	まとめ・期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新 介護福祉士養成講座 1 2 発達と老化の理解 中央法規		期末試験 課題・レポート	90.0% 10.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
認知症の理解 I		介護福祉学科／1年	2025／前期	講義	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	15回	2単位（30時間）	必須	阿部 悠香	
授 業 の 概 要					
1. 認知症の基礎的理解 2. 認知症の症状・診断・治療・予防 3. 認知症を取り巻く状況					
授業終了時の到達目標					
1. 認知症について正しく理解する 2. 認知症当事者の視点から見えるものや取り巻く状況を理解し、具体的な支援策を考えることができる					
実務経験有無		実務経験内容			
有		看護師として16年の実務経験			
時間外に必要な学修					
復習として單元ごとのワークシートを仕上げる 次回の授業内容を踏まえてテキストを読んで予習をする					
回	テ ー マ		内 容		
1	認知症の基礎的理解		認知症とは何か		
2			脳のしくみ		
3			認知症の人の心理		
4	認知症の症状・診断・治療・予防		中核症状の理解		
5			生活障害の理解		
6			BPSDの理解		
7			主要なBPSD		
8			認知症の診断と重症度		
9			認知症の原因疾患と症状・生活障害		
10			認知症の治療薬・予防		
11	障害をかかえて生きることへの支援		認知症を取り巻く状況 これまで一今一これから		
12			認知症ケアと理念の視点		
13			認知症当事者の視点からみえるもの①		
14			認知症当事者の視点からみえるもの②		
15	まとめ		まとめ、期末試験		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
最新理解	介護福祉士養成講座 1 3 認知症の中央法規		期末試験 課題・レポート	90.0% 10.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
認知症の理解Ⅱ		介護福祉学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	阿部 悠香
授 業 の 概 要				
1. 認知機能障害による生活への影響と認知症ケア 2. 家族への支援 3. 多職種との連携と協働				
授業終了時の到達目標				
1. 認知症の人の特性を理解し、支える家族を含めた支援・サポート体制を考えることができる 2. 認知症の人の生活障害へのケアについて理解する				
実務経験有無	実務経験内容			
有	看護師として16年の実務経験あり			
時間外に必要な学修				
テキストの予習・復習				
回	テ ー マ	内 容		
1	認知症ケアの実際	パーソン・センタード・ケア		
2		認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール(アセスメントツール)		
3		認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール(健康状態のアセスメント)		
4		認知症の人とのコミュニケーション		
5		認知症の人へのケア(食事・排泄ケア)		
6		認知症の人へのケア(入浴・清潔保持・休息と睡眠のケア)		
7		認知症の人へのケア(活動・生きがい・BPSDのケア)		
8		認知症の人への様々なアプローチ		
9		認知症の人の終末期医療と介護		
10		環境づくり		
11	介護者支援	家族への支援		
12		介護福祉職への支援		
13	認知症の人の地域生活支援	制度、サービス、機関、地域づくり		
14		多職種連携と協働		
15	まとめ	まとめ・期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新理解	介護福祉士養成講座 1 3 認知症の中央法規	期末試験 課題・レポート	90.0% 10.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
障害の理解Ⅰ		介護福祉学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	福原 里奈
授 業 の 概 要				
1. 障害の基礎的理解 2. 障害者福祉についての理解 3. 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援				
授業終了時の到達目標				
1. 医学的な知識に基づいて障害を理解する 2. 障害のある人の心理的側面や生活面も含めた支援を考えられる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		看護師として8年の実務経験あり		
時間外に必要な学修				
テキストの予習・復習				
回	テ ー マ		内 容	
1	障害の概念		1. 障害のとらえ方 1) 医学モデルと社会モデルという概念 2) 障害者基本法の定義 2. ICIDHからICFへの変遷 1) ICIDHでの障害のとらえ方 2) ICFでの障害のとらえ方 3. 障害者の概数 4. 障害者の定義 1) 障害者基本法による定義 2) 障害者総合支援法による定義 3) 身体障害者の定義 4) 知的障害者の定義 5) 精神障害者の定義 6) 障害児の定義	
2	障害者福祉の基本理念		1. ノーマライゼーション 2. リハビリテーション 3. インクルージョン 4. エンパワメント 5. ストレngthス 6. 国際障害者年 7. 障害者権利条約 8. アドボカシー	
3	障害者福祉に関連する制度		1. 障害者総合支援法 2. 障害者差別解消法 3. 障害者虐待防止法 4. 障害者の就労支援 5. 成年後見制度	
4	障害者福祉制度と介護保険制度		1. 障害者福祉制度と介護保険制度の違い 2. 障害者福祉サービスと介護保険サービスの併用	
5	障害のある人の心理		1. 人間の欲求 2. 適応機制 3. 障害受容の過程 4. 心理的支援の方法	

回	テ ー マ	内 容
6	肢体不自由（運動機能障害）①	1. 肢体不自由とは 2. 障害の種類 3. 障害の原因 4. 身体特性の理解 5. 障害の原因となるおもな疾患の理解
7	肢体不自由（運動機能障害）②	6. 心理的側面の理解 7. 生活面の理解 8. 障害の特性に応じた支援
8	視覚障害	1. 視覚障害とは 2. 障害の種類 3. 障害の原因 4. 障害の特性の理解 5. 障害の特性に応じた支援
9	聴覚・言語障害	1. 聴覚障害 1) 聴覚障害とは 2) 障害の特性の理解 3) 障害の特性に応じた支援 2. 言語障害 1) 言語障害とは 2) 障害の特性の理解 3) 障害の特性に応じた支援
10	重複障害	1. 重複障害とは 2. 障害の原因 3. 障害の種類 1) 盲ろう重複障害（盲とろう） 2) 聴覚と知的の重複障害 3) 視覚と知的の重複障害 4. 重複障害児への支援
11	内部障害①	1. 心臓機能障害 1) 心臓機能障害とは 2) 障害の原因 3) 障害の特性の理解 4) 障害の特性に応じた支援 2. 呼吸器機能障害 1) 呼吸器機能障害とは 2) 障害の原因と症状 3) 治療の方法 4) 障害の特性の理解 5) 障害の特性に応じた支援
12	内部障害②	3. 腎臓機能障害 1) 腎臓機能障害とは 2) 障害の原因 3) 障害の特性の理解 4) 障害の特性に応じた支援 4. 膀胱・直腸機能障害 1) 膀胱・直腸機能障害とは 2) 膀胱機能障害の治療・管理 3) 直腸機能障害の治療・管理 4) 障害の特性の理解 5) 障害の特性に応じた支援

回	テ ー マ	内 容		
13	内部障害③	5. 小腸機能障害 1) 小腸機能障害とは 2) 障害のおもな症状 3) 治療と管理 4) 障害の特性の理解 5) 障害の特性に応じた支援 6. ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害 1) 症状と治療 2) 障害の特性の理解 3) 障害の特性に応じた支援 7. 肝臓機能障害 1) 肝臓機能障害とは 2) 障害の原因 3) 障害の特性の理解 4) 障害の特性に応じた支援		
14	重症心身障害	1. 重症心身障害とは 2. 障害の原因と分類 3. 障害の特性の理解 4. 障害の特性に応じた支援		
15	まとめ	まとめ、期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新 介護福祉士養成講座 1 4 障害の理解 中央法規		期末試験 課題・レポート	90.0% 10.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会人基礎講座		介護福祉学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	選択	坂井 利成
授 業 の 概 要				
就職活動も含めながら社会人となるための基礎力を身につける				
授業終了時の到達目標				
1) 3KAN教育（1. 自己効力感 2. 成長実感 3. 学び続ける習慣）により企業が求める人材を育成する 2) 基礎学力、専門知識を将来社会において発揮することができるための汎用的能力の育成 3) 目標を設定し管理することによって、自己成長を実感させ、将来設計ができるようになる				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
次回の授業内容をふまえて、テキストを用いて今回の学習内容の復習と予習を行う				
回	テ ー マ		内 容	
1	・ 就職活動の世界を知る ・ 偶然が作る人生		・ 就職活動の目的、目標を考える ・ 今まで出会ってきた偶然	
2	・ ものの見方 ・ 考え方		・ 自分の癖を知る ・ ものの見方を広げる	
3	適性検査		適性検査	
4	記憶からたどる		自分自身について知るために、記憶からたどる	
5	文章の書き方と構成の仕方		・ 文章の書き方について学ぶ ・ テーマに沿った文章を構成する	
6	自己分析		・ 過去/現在/未来の自分から、自分を分析する	
7	自己PR作成		自己PR作成	
8	企業の見つけ方		各学科での業界研究、説明	
9	履歴書の書き方と伝え方		自身の基本情報、趣味を書き出す	
10	志望動機		志望動機を書く	
11	30問30答		30問30答の作成	
12	履歴書、30問30答、自己PR		履歴書、30問30答、自己PRを完成させる	
13	プレゼンの基本と応用		自身の自己PRプレゼンテーションを振り返る	
14	話の聴き方、面接の基本を学ぶ		話の聴き方、面接の基本を学ぶ	
15	オンライン面接・グループディスカッション		オンラインでのコミュニケーション方法	
教科書・教材		評価基準		評価率
就活ゼミ教材 就職の手引		出席率		100.0%
				その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
日本語 I		介護福祉学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	選択	川村 久恵
授 業 の 概 要				
JLPT：N3・N2に合格できる。 読解問題の苦手意識をなくす。 介護福祉士国家試験問題の解法に必須のN3の文法を、学生全員が習得できる。				
授業終了時の到達目標				
・ 国家試験を受験する方は、日本語の各分野を修得する ・ JLPTに合格する				
実務経験有無		実務経験内容		
有		看護師経験 1 6 年、看護学校非常勤講師 1 0 年以上、介護福祉士養成施設専任教員 4 年以上、日本語学科日本語教師 2 年以上		
時間外に必要な学修				
授業で習った問題（文法問題）を自主的に復習する。 授業予定での語彙問題を予習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	N1・N2・N3模擬試験実施		文法・語彙・文法・読解	
2	N1・N2・N3模擬試験実施 自己紹介		読解 自己紹介、次回宿題の説明	
3	N3・N2・N1の文字、語彙、文法		N3：2 0 日で合格（語彙）：1 日目（基礎から応用：1 日目） N2：ドリル&模試文字 語彙・文法：第 1 日目 N1：パワードリル文字語彙：第 1 日目、2 日目	
4	N3の文字・語彙・文法		N3：2 0 日合格（文法）：1 日目（基礎から応用 1 日目：漢字①） N2：ドリル&模試文字 語彙・文法：2 日目 N1：パワードリル文法 1 ・2 日目	
5	N3の文字・語彙・文法		N3：2 0 日で合格（語彙）：2 日目（基礎から応用：2 日目） N2：ドリル&模試文字 語彙・文法：3 日目 N1：パワードリル語彙：3 日目、4 日目	
6	N3の文字・語彙・文法		N3：2 0 日で合格（文法）：2 日目（基礎から応用：漢字②） N2：ドリル&模試文字 語彙・文法：4 日目 N1：パワードリル文法：3 日目、4 日目	
7	N3の文字・語彙・文法		N3：2 0 日で合格（語彙）：3 日目（基礎から応用：3 日目） N2：ドリル&模試 語彙・文法：5 日目 N1：パワードリル語彙：5 日目、6 日目	
8	N3の文字・語彙・文法		N3：2 0 日で合格（文法）：3 日目（基礎から応用：漢字③） N2：ドリル&模試 語彙・文法：6 日目 N1：パワードリル語彙：5 日目、6 日目	

回	テ　　マ	内　　　　　　容		
9	N3の読解 N2・N1読解問題	N3：ドリル&ドリル読解 N2：ドリル&ドリル読解 N1：ドリル&ドリル読解		
10	N3の文字・語彙・文法	N3：20日で合格（文法）：4日目（基礎から応用：4日目） N2:ドリル&模試　語彙・文法：7日目 N1：パワードリル語彙：7日目、8日目		
11	N3の文字・語彙・文法	N3：20日で合格（文法）：4日目（基礎から応用：漢字） N2:ドリル&模試　語彙・文法：8日目 N1：パワードリル語彙：7日目、8日目		
12	N3の読解 N2・N1読解問題	N3：ドリル&ドリル読解・聴解 N2：ドリル&ドリル読解・聴解 N1：ドリル&ドリル読解・聴解		
13	JLPT模擬試験　N1・N2・N3	N1・N2・N3模擬試験：文字・語彙・文法・読解		
14	JLPT模擬試験　聴解	模擬試験：聴解 今までのまとめ問題		
15	前期末テスト	言語知識（文字・語彙・文法）についての確認テストを施行		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉士養成科目内容が理解できるための日本語4技能の運用能力を伸ばす。 ・ N3～N2レベルの文字、語彙、文法の習得 ・ 読解能力の習得		期末試験	80.0%	
		確認テスト	20.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
日本語Ⅱ		介護福祉学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	選択	川村 久恵
授業の概要				
・介護福祉士養成科目の内容を理解する為に4技能を伸ばす ・国家試験とJLPTに向けて、テスト対策 ・N1、N2、N3の文法、漢字・語彙、読解の強化				
授業終了時の到達目標				
・国家試験を受験する方は、日本語の各分野を修得する ・JLPTに合格する				
実務経験有無		実務経験内容		
有	看護師経験16年、看護学校非常勤講師10年以上。技能実習生に対する日本語教師1年以上			
時間外に必要な学修				
授業で配布したプリントで自主的に復習する。				
回	テーマ		内 容	
1	第1回 夏休みについて作文とスピーチ・助詞		夏休みについて（作文作成・発表）、助詞「で&を」	
2	第2回 文字語彙⑧・読解		文字・語彙（N1ドリル&模試第8回、N2直前対策第8回、N3直前対策第8回）・読解（N1・N2日本語総まとめ第4週3・4日目、N3必ずできる！JLPT「読解」N3 Level3 - 9, 10）	
3	第3回 文法⑧・読解		文法（N1ドリル&模試第8回、N2直前対策第8回、N3直前対策第8回）・読解（N1・N2日本語総まとめ第4週5・6日目、N3必ずできる！JLPT「読解」N3 Level3 - 11, Level4 - 13）	
4	第4回 文字語彙⑨・読解・語彙と会話（介護施設での車いす移動）		文字・語彙（N1ドリル&模試第9回、N2直前対策第9回、N3直前対策第9回）・読解（N1・N2日本語総まとめ第4週7日目、N3必ずできる！JLPT「読解」N3 Level4 - 13つづき）、車いす移動リピート（介護で学ぼう！介護の日本語5章）	
5	第5回 文法⑨・読解		文法（N1ドリル&模試第9回、N2直前対策第9回、N3直前対策第9回）・読解（N1・N2日本語総まとめ第5週1・2日目、N3必ずできる！JLPT「読解」N3 Level4 - 14）	
6	第6回 文字語彙⑩・読解・助詞		文字・語彙（N1ドリル&模試第10回、N2直前対策第10回、N3直前対策第10回）・読解（N1・N2日本語総まとめ第5週3・4日目、N3必ずできる！JLPT「読解」N3Level4 - 15）、助詞「を&に」	
7	第7回 文法⑩・読解・語彙と会話（介護施設での杖歩行）		文法（N1ドリル&模試第10回、N2直前対策第10回、N3直前対策第10回）・読解（N1・N2日本語総まとめ第5週5・6日目、N3必ずできる！JLPT「読解」N3 Level4 - 16）、杖歩行リピート（介護で学ぼう！介護の日本語6章）	

回	テ　　マ	内　　　　　容		
8	第8回　文字語彙⑪・読解・助詞	文字・語彙（N1ドリル&模試第11回、N2直前対策第11回、N3直前対策第11回）・読解（N1・N2日本語総まとめ第5週7日目、N3必ずできる！JLPT「読解」N3 Level 4 - 17）、助詞「まで&に」		
9	第9回　文法⑪・読解	文法（N1ドリル&模試第11回、N2直前対策第11回、N3直前対策第11回）・読解（N1・N2日本語総まとめ第6週1・2日目、N3必ずできる！JLPT「読解」N3 Level 4 - 17つづき）		
10	第10回　文字語彙⑫・読解・語彙と会話（介護施設での食事）	文字語彙（N1ドリル&模試第12回、N2直前対策第12回、N3直前対策第12回）・読解（N1・N2日本語総まとめ第6週3・4日目、N3必ずできる！JLPT「読解」N3 Level 4 - 18）、食事リピート（介護で学ぼう！介護の日本語第7章）		
11	第11回　文法⑫・読解	文法（N1ドリル&模試第12回、N2直前対策第12回、N3直前対策第12回）・読解（N1・N2日本語総まとめ第6週5・6日目、N3必ずできる！JLPT「読解」N3 Level 4 - 19）		
12	第12回　文字語彙⑬・読解	文字語彙（N1ドリル&模試第13回、N2直前対策第13回、N3直前対策第13回）・読解（N1日本語総まとめ第6週7日目・N2日本語総まとめ第1週1・2・3日目、N3必ずできる！JLPT「読解」N3 Level 4 - 20）		
13	第13回　文法⑬・読解	文法（N1ドリル&模試第13回、N2直前対策第13回、N3直前対策第13回）・読解（N1日本語総まとめ第1週1・2・3日目・N2日本語総まとめ第1週4・5・6日目、N3必ずできる！JLPT「読解」N3 Level 5-12・13）		
14	第14回　文字語彙⑭・読解・語彙と会話（介護施設での排泄）	文字語彙（N1ドリル&模試第14回、N2直前対策第14回、N3直前対策第14回）・読解（N1日本語総まとめ第1週4・5・6日目・N2日本語総まとめ第1週7日目・2週1・2日目　N3必ずできる！JLPT「読解」N3Level 6-21）　排泄リピート（介護で学ぼう！介護の日本語第8章）		
15	まとめ 後期期末試験	まとめ 期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・N1ドリル&模試（文字・語彙・文法）、 N2・N3直前対策（文字・語彙・文法）、N 1 文法総まとめ、N2文法総まとめ、N3文法 語彙漢字、会話で学ぼう！介護の日本語、 介護のことば基本のことば・日本語の助詞		期末試験	80.0%	
		確認テスト	20.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
就職実務		介護福祉学科／1年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	選択	坂井 利成
授 業 の 概 要				
就職活動についての支援 就職活動に必要なスキルの再認識や再確認、最新の情報の提供を行う				
授業終了時の到達目標				
1. 面接に対する恐怖感をなくす 2. 就職試験で本来の力を発揮できるように継続してスキルアップを目指す				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	オリエンテーション 印象アップ講座	資料配布、担任動機づけ 印象アップ講座		
2	就職CC動機づけ 自己紹介、自己PR発表	就職CC動機づけ 自己紹介、自己PR発表		
3	挨拶練習	挨拶練習		
4	50問50答①	50問50答練習		
5	挨拶練習	挨拶練習		
6	電話応対、会社訪問、面接ロールプレイ ①	電話応対、会社訪問、面接練習		
7	50問50答②	50問50答発表		
8	面接練習①	面接練習①		
9	挨拶練習	挨拶練習		
10	電話応対、会社訪問、面接ロールプレイ ②	電話応対、会社訪問、面接練習		
11	グループワーク	NASAゲーム		
12	グループワーク	時事問題		
13	挨拶練習	挨拶練習		
14	面接練習②	面接練習②		
15	グループディスカッション	グループディスカッション		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「就職の手引き」		出席率 授業態度	60.0% 40.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、「就職の手引き」等を見直す